

「敵/味方を分ける」思考が社会的対立を深める態度と関連することを発見 ～国際関係における否定的な政治態度や陰謀論信念の形成との関連性を発見～

ポイント

① 敵-味方分断思考 (Friend-Enemy Divided Thinking, ※1)

「敵か味方か」で他者を判断する思考傾向。この思考、国際関係における否定的な政策態度や陰謀論信念(※2)の形成と関連を持つことを発見した。

② 政策態度との関連性

敵-味方分断思考が強い人ほど移民政策に否定的であり、防衛政策を重視する傾向があることを明らかにした。

③ 陰謀論信念との関連性

敵-味方分断思考が強い人ほど COVID-19 や政治的陰謀論を信じやすいことが判明した。

概要

現代社会では、集団間で生じる紛争がさまざまな形で表れ、国家間の対立や移民問題、陰謀論の広がりにまで影響を与えることが指摘されています。本研究では、集団間紛争の問題の根底にある心理的要因として「敵-味方分断思考」に注目し、この思考が国際関係における否定的な政策態度や陰謀論信念の形成と関連を持つことを発見した。

九州大学大学院法学研究院の大賀哲准教授および福岡大学人文学部文化学科の縄田健悟准教授、福岡女学院大学人間関係学部心理学科の藤村まこと准教授らの研究グループは、日本国内の 735 名の回答を対象とした分析を行い、敵-味方分断思考の「国際関係における政策態度との関連」、「陰謀論信念との関連」および「統計的分析」について明らかにしました。

敵-味方分断思考という観点を導入することで、教育や対話を通じて敵・味方分断思考を低減させることで、社会の分断や対立を緩和することが期待されます。さらに、移民政策や国際協力の推進において、心理的要因を考慮する新たなアプローチが可能です。

以上の本研究成果は、SAGE Open 誌において 2024 年 5 月 28 日に公開されました。

【研究の背景】

現代社会では、集団間で生じる紛争がさまざまな形で表れ、国家間の対立や移民問題、陰謀論の広がりによって影響を与えることが指摘されています。本研究では、集団間紛争の問題の根底にある心理的要因として、「敵-味方分断思考」に注目しました。敵-味方分断思考とは、他者を敵か味方かで明確に分けて判断する心理傾向として本研究が名付けたものです。本研究では、これが社会的態度とどのような関連があるかを検討しました。分析の結果、敵／味方分断思考が、国際関係における否定的な政治態度および陰謀論信念と正の関連があることを明らかにしました。

【研究の知見】

本研究グループは、質問票調査を実施し、日本国内の 735 名の回答を対象とした分析を行いました。この研究で分かったことは次のとおりです。

1. 国際関係における政策態度との関連

敵-味方分断思考が強い人ほど、移民に対して否定的であり、国家防衛を強く支持する傾向が明らかになった。これは、外集団を「敵」として認識することによるものと考えられる。

2. 陰謀論信念との関連

敵-味方分断思考が強い人は、特に COVID-19 や政治的陰謀論を信じやすいことが判明した。これは、「敵」が社会に害を与えていると認識しやすい心理的傾向が影響していると考えられる。

3. 統制変数

性別、年齢、教育レベル、政治的イデオロギーなどの影響を統制した上でも、敵-味方分断思考と上記の態度・信念との関連性が確認された。

これらの結果は、「敵-味方分断思考」が社会的分断や対立を助長する心理的要因として重要であることを示唆しています。

【研究成果の社会的意義と今後の応用】

敵-味方分断思考という観点を導入することで、以下の点で社会に応用することが期待できます。

● 社会分断の防止への応用

教育や対話を通じて敵・味方分断思考を低減させることで、社会の分断や対立を緩和することが期待される。

● 政策形成への応用

移民政策や国際協力の推進において、心理的要因を考慮する新たなアプローチが可能である。

こうした応用を目指すために、今後は他国や異文化圏での比較調査を行い、敵／味方分断思考の普遍性と文化的特性を解明するとともに、敵-味方分断思考を低減させるための介入方法や教育プログラムの開発が求められます。

【用語解説】

(※1) 敵-味方分断思考

他者を「敵」と「味方」に明確に分けて判断する心理的傾向。この傾向が強いと、対立感情や排外的態度が生まれる可能性がある。

(※2) 陰謀論信念

特定の集団や勢力が悪意を持って社会を操作しているという陰謀論を支持する程度のこと。例として、「COVID-19 が人工的に作られた」「アメリカ大統領選挙で大規模な選挙不正が行われた」といった主張が挙げられる。

【謝辞】

本研究は、アジアオセアニア研究教育機構文化変動クラスターの研究費および JSPS 科研費（20K03324）の助成を受けたものです。

This work was supported by the Cultural Variation Cluster in the Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies and JSPS KAKENHI (grant numbers 20K03324).

【論文情報】

掲載誌： SAGE Open

タイトル： Friend-Enemy Divided Thinking from the Perspective of Intergroup Conflict: Relationship with International Attitudes and Conspiracy Beliefs

著者名： Kengo Nawata, Makoto Fujimura, and Toru Oga

D O I : 10.1177/21582440241249166

【お問合せ先】

<研究に関すること>

九州大学大学院法学研究院 准教授 大賀 哲（オオガ トオル）

Mail : toga@law.kyushu-u.ac.jp

<報道に関すること>

九州大学 広報課

TEL : 092-802-2130 FAX : 092-802-2139

Mail : koho@jimu.kyushu-u.ac.jp